

道徳 中学校 1年

資料名 「ともだちや」
出典 偕成社

本時の流れ (1/1)

主題名 友情・信頼

内容項目 2 - (3)

本時のねらい

「本当の友だち」とはどういうものかを考えさせることによって、心から仲間を思い、互いに高め合えるような真の友情を育てようとする態度を養う。

導入

○友だちについて考える。

- ・ 学校が楽しいですか。それはなぜですか。
- ・ どんな人と友だちになりたいですか。

心に響く授業のために

紙芝居を工夫して聴かせることにより、キツネの心情に共感させる。

☆椅子だけ持たせて生徒を前に集める。気軽に意見を言える雰囲気をつくる。

☆登場人物の台詞を事前に録音するなど、効果的な演出をして紙芝居を観させるなど、教材の提示方法を工夫して生徒に感情移入させ、話合いにより考えを深めさせる。

展開 前段

○資料を読んで考える。

- ・ 「ともだちや」の前半を聞く。
- ・ 話の筋を理解する。

・ キツネが始めた「ともだちや」とはどういうものですか。

・ なぜ、キツネは「ともだちや」を始めようと思ったのでしょうか。

・ 「まいどありー」と答えた時、どんな気持ちだったでしょう。

・ おなかを押さえながら二百円いただいた時、キツネはどんなことを考えたでしょう。

☆友だちをつくらうとはりきっている様子を押しさえる。

☆ついに「ともだちや」としての商売には成功するが、楽しそうではないキツネの様子を押しさえる。

○補助発問 ○「痛いのはお腹だけかな。」友だちをお金で得た後ろめたさや本音で付き合っていないキツネの心の痛みを考えさせる。

展開 後段

○「本当の友だち」について考える。

- ・ 「ともだちや」の後半を聞く。

・ キツネはなぜ、そーっと手を引っこめたのでしょうか。

◎あなたにとって「本当の友だち」とはどのようなものなのだろう。

心に響く授業のために

自分なりの「本当の友だち」について、理由を挙げさせ、話合いを深めさせる。

☆オオカミに「おだいだって！」と言われたキツネの気持ちを考えるを通し、「本当の友だち」について考えを深めさせる。

☆生徒一人一人に、自分にとっての「本当の友だち」について考えさせ、体験など理由を挙げて、話合いを深めさせるようにする。

☆感想を書かせ、自分の考えの変化や深まりに気付かせる。

終末

○入学してからの仲間存在を振り返り、友だちについてもう一度考える。

○授業の感想を書く。

資料とねらい

「友だちはいりませんか。1時間 100円。…」と、「ともだちやさん」を始めようことを思い付くが、オオカミとの出会いで、友だちはお金で買うものではないことに気付くキツネの話である。魅力的に描かれている絵本を紙芝居にすることで視聴覚的に印象付けることができる。「本当の友だちとは、どのようなものであるべきか」を考えることができる資料である。

CLICK

詳しい指導案
はこちら

HOME